

第 47 回卒業証書授与式及び第 19 回専攻科修了証書授与式告辞

本日、ここに、鈴鹿工業高等専門学校第 47 回卒業証書授与式及び第 19 回修了証書授与式を執り行うにあたり、ご来賓並びに保護者の皆様をはじめ、多数の方々のご臨席を賜り、喜びを分かち合えますことを心から感謝し、お礼申し上げます。

本日、晴れて鈴鹿工業高等専門学校を卒業する 198 名、専攻科を修了する 40 名の皆様、そして、温かく見守り、強く支え続けられてこられました保護者の皆様、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。入学されてからの幾歳月を振り返り、卒業生・修了生のみならず保護者の皆様にも万感の思いが込められていることと思います。

本校は、知・徳・体 三育の全人教育を建学の精神とし、勉学、課外活動などに積極的に取り組むとともに、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けた、学科と専攻科を縦断する複合型生産システム工学プログラムにより大学レベルの高度な工学教育も実施してきました。その中で、楽しかったこと、つらかったこと、うれしかったこと、悔しかったことなど、いろいろな思いが心をよぎっていることでしょう。もっと、がんばればよかったと反省することもあるでしょう。しかし、皆様方は、無事、この卒業、修了の日を迎えられました。大いに誇りに思ってください。そして、自信にしてください。ただ、ご家族の方、先生方など周りの人の支えにより、このよき日を迎えることができたということを決して忘れないようにしていただきたいと思えます。

さて、皆さんは、編入学、本科生、専攻科生と様々ですが、入学後、概ね 3 年から 7 年間、学園生活を送られました。本科生が入学された 2008 年には、ノーベル賞を物理学賞で小林、益川、南部の三氏、化学賞で下村氏が受賞するという輝かしい年でした。しかし、一方でリーマンショックが起これ、世界的に株価が暴落し、以後、景気後退局面に入りました。製造業をはじめとする、ものづくり産業は、円高の影響もあり海外展開が積極的に図られ、国内産業の空洞化が叫ばれるようになりました。また、“チェンジ”を掲げたオバマ氏が、黒人として初めてアメリカ大統領に選ばれた年でもありました。このような世相を受け、その年を表す一字漢字は、「変」となったことを思い出される方は多いと思えます。

以後、民主党新政権誕生の「新」、猛暑の「暑」、東日本大震災の「絆」と続きました。千年に一度の大災害の後、早いもので 2 年が経ちました。被災地では復興の遅れが言われ、残念な面もありますが、人々の優しく、暖かく、力強い絆は健在です。ボランティア、専門家や労働者などとしての個人的な助け合い、自治体、企業や団体などの組織的な地域を越えた連帯は、苦難の中にあっても貴重な財産を残してくれました。

そして、今年度は、ロンドンオリンピックのゴールドメダルラッシュに象徴されるような「金」になりました。さらに忘れてならないのは、山中伸弥氏のノーベル賞受賞です。外科医としての研修中、「ジャマ中」と言われるような挫折を味わいながらも、大きな夢と地道な努力によって世界的な名声を勝ち取ったことは、雲の上の存在のノーベル賞が私たち身近に存在するというを気づかせてくれました。実学により近い分野での受賞は、近い将来、高専卒業生からも受賞者が出ることを期待させてくれます。そして、ものごとを進める上で、ビジョンとハードワークが車の両輪のように大切であることも教えてくれました。

皆さん方は、これから就職、専攻科や大学への進学など多様な道を進まれます。これか

ら大人として生きる時代は、今まで以上に社会がスピーディに変化する時代になるでしょう。人やモノの移動に加えて、近年、指数関数的にスピードを増す金融や情報の動きは、好むと好まざるにかかわらず、あなた方の生き方に影響を及ぼします。私の専門である交通工学の分野からみても、この50年間で陸上交通機関を使った年間一人あたりの移動距離は、ほぼ2500kmから1万kmへと4倍になりました。その間、人の寿命は2割程度しか伸びていません。一日に費やす移動時間は同じとすると、移動速度が3倍に達したことがわかります。そして、情報はどうでしょう？ 手紙の時代からメールの時代になりました。一日わずかししか配達されなかった郵便は、今ではメールとなって何十、何百となって押し寄せてきています。このような時代には、変化に対応してチェンジする力と同時に自分を見失わない、チェンジしない力を身に着ける必要があるでしょう。芭蕉の言う「不易流行」の不易の自分、たとえ時が経とうが変わらない自分を見つけてほしいと思います。それには勉強が必要です。卒業してからも、勉強する習慣を一生持ち続けてください。

鈴鹿高専には養成すべき人材像が四つあります。一つ目に生涯にわたる学習を明記しています。それは、生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人材を養成することです。二つ目は、高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材、三つ目は、課題探究能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材、そして最後は、コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材です。キーワード的にいえば、人間性、実践性、創造性、国際性の四つです。あなた方は、実践力を伴った創造力を有する、国際的にも活躍できる、人間性豊かな人物に育ってほしいと願って教育されてきたのです。この人材像は、一生を通じ当てはまるものですので、人生の節々で折に触れて思い出していただきたいと思います。

さて、皆さんの高専生活では、学業に加え、全力で取り組んだ課外活動や様々なイベント、そして海外研修も、キャンパスライフを豊かにしてくれたことと思います。私も今年度、初めて校長として着任し、たくさんの良い思い出を作ることができました。夏の高専体育大会、秋のロボコン、高専祭、そして創立50周年記念式典などを通じ、皆さんの素晴らしい成長する力を確認することができうれしく思いました。また、鈴鹿高専のホームページのフォト広報に記載されていますように、皆さんが受賞した数多くの表彰の喜びを分かち合うこともできました。各種学会での論文やポスター発表、日本陸上選手権大会入賞や高専連合会からの特別表彰、ロボコン地区大会優勝・全国大会ベスト4やパテントコンテスト特許出願対象者選定など、様々な分野からの表彰でしたが、鈴鹿高専が全国的に高い評価を受けていることを実感できました。

卒業後、修了後、皆さんは就職、進学と進む道は違いますが、立派な社会人に育ってほしいと思います。そして、高専卒業生として、とりわけ持続可能な社会づくりに貢献するエンジニアに育ってほしいと思います。持続可能な社会づくりには、環境、福祉、経済からの三面からのアプローチがあります。環境面では、最近話題になっているPM2.5のような古典的な公害問題に加え、地球温室効果ガスの削減に代表される地球環境問題への対応もあります。福祉については、高齢者、障がい者、子供たちたちを含めた、万人のQOL（生活の質）を向上させることが必要となってきます。経済的には、地域に根差す産業の活性化が求められます。

このような人間と地球、そして地域の持続可能性の課題を考えると、最も必要とされ

ているのは“技術”です。よく言われる「日本の失われた 20 年」の主な原因は、技術のイノベーションが欧米の先進国に比べて立ち遅れたことにあります。その技術のイノベーションを、これから行うのが皆さんです。イノベーションに欠かせないのは科学的思考です。科学的思考は現象を的確にとらえる力、その現象の因果関係を仮説化する力、そして、その仮説を検証する力が大切になります。これには分析と総合という二つのプロセスが常に必要ですので、高専時代の実験や研究を思い出して、この分析と総合という二つの言葉の意味を捉えなおしてほしいと思います。

ここに皆さんは夢を膨らませて、この学園を巣立っていきます。新しい環境に不安な面もあるでしょう。自信が持てないとき、悩んでいるとき、次の言葉を思い出してほしいと思います。私の古里、岡山のノートルダム清心女子大学の学長を 36 歳の時から 63 歳までの 27 年間にわたり務められた渡辺和子氏の著書にある言葉です。氏は二二六事件の凶弾に倒れた教育総監の次女でもいらっしゃいます。「Bloom where God has planted you. 神があなたを植えた場所で咲きなさい。」あなた方が巣立って行く場所は、神のような、天のような大きな力で与えられたものかもしれません。置かれた場所で咲く努力をすることも重要なことかと思えます。

最後に、皆さんにお伝えしたいことがあります。皆さんとともに、幾人かの教職員も新しい職場に、人生へと踏み出されます。長きにわたり教育に尽力していただいた奥教授、桑原教授、長嶋准教授、短い間でしたが熱心に指導していただいた篠原講師、そして事務・技術サイドからサポートをいただいた濱口事務部長、阪口総務課長、石川学生課長補佐、岡本技術職員の方々です。これらの方々の思いもひとしおかと思えます。

桑原先生は宮崎県の都城高専に校長として栄転されます。遠方にて不安な面もあるかと思いますが、健康に留意の上、鈴鹿高専のよき文化を伝えていただければありがたいと思います。奥先生には嘱託教授として引き続き授業を担当していただきありがとうございます。篠原先生は滋賀大学に着任されます。まだ若いですから新天地にて一回りも二回りも大きく成られことを期待します。

それでは、卒業、修了する皆様方が、この良き日をこれからの人生のスタートラインとして、入学当初の初心を忘れず、充実した思い出深い高専生活を貴重な財産として、立派な人間に育ち、幸せな人生を送られることを祈念するとともに、本日の式典にご多用中にも関わらず、ご参加いただきました、ご来賓、保護者の方々に厚くお礼を申し上げ、私の挨拶とします。

平成 25 年 3 月 25 日

鈴鹿工業高等専門学校長
新 田 保 次